

特集

認知症、みんなが当事者です。

～認知症の人とその家族、そして私たちみんなが
それぞれの強みを生かして安心して暮らせるまち「たつの市」へ～

認知症への関心と正しい理解を深める必要性を伝えるため、認知症基本法（令和6年1月施行）に、9月は認知症月間、9月21日は認知症の日（世界アルツハイマーデー）と定められています。

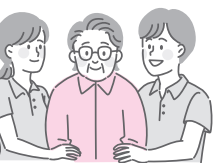
●認知症は誰もがなりうる病気

国の推計値では、2040年には高齢者の約7人に1人、2060年には約6人に1人が認知症になると言われています。※軽度認知障害（MCI）の人も合わせると2060年には約3人に1人が認知症となる推計で、誰もが認知症になる可能性があり、他人事ではありません。一人一人が「自分ごと」として理解する必要があります。

認知症になってからも、本人の意思が尊重され、住み慣れた環境で自分らしく暮らし続けることができるよう、認知症や認知症の人についての理解を深めることが大切です。

●「新しい認知症観」へ

「新しい認知症観」とは、認知症になったら何もできなくなるのではなく、認知症になっても、一人一人が個人としてできること・やりたいことがあり、住み慣れた地域で仲間等とつながりながら、希望を持つて、自分らしく暮らし続けることができるという考え方です。



正しく理解する

●認知症とは？

「認知症」とは、さまざまな原因により、脳の神経細胞の動きが徐々に変化し、記憶力や判断力などが低下して、日常生活に支障をきたしている状態です。

●認知症は早期発見・早期治療が大切です！

認知症は、時間とともに症状が進行する病気です。早期に発見して、認知症の状態に応じた適切な治療や支援を受けることが、その人らしい生活を持続させる上でも重要です。

特に、※軽度認知障害（MCI）の段階で発見できれば、生活改善や薬の使用などにより、認知症になることを予防できたり、症状の進行を緩やかにします。

※軽度認知障害（MCI）
正常な状態と認知症の状態との間の段階です。認知症と同じような症状が見られることもありますが、日常生活に大きな支障はみられません。

「自分（家族）が認知症かもしれない」「最近もの忘れがひどくなってきた」と心配な方は、もの忘れ検診を受診しましょう。かかりつけ医で簡易な認知機能検査を無料で受けることができます。

できます。

もの忘れ検診の詳細はこちら



認知症予防講演会

予防方法や治療についてわかりやすく学べる講演会を開催します。

■とき 9月19日（土）14時～16時
■ところ 赤とんぼ文化ホール 中ホール

■演題 「認知症予防の最新線（S・C・I）（主観的認知障害）とMCI（軽度認知障害）からの予防」

■講師 古橋 淳夫さん（医療法人古橋会 損保川病院理事長・院長）

■定員 300名（申し込み不要）

■参加費 無料

本を読んで認知症への理解を深めましょう

認知症月間中は、市内4つの図書館で、認知症に関する本の特設コーナーを設置しています。



認知症に関する出前講座

市内の団体を対象に、認知症についての出前講座を実施しています。

地域全体で認知症を学ぶ機会として、「活用ください」。

●認知症予防講座（認知症に備える）

認知症の予防、軽度認知障害や認知症の症状への対応方法等の講座です。

●認知症サポーター養成講座（今日から私も認知症サポーターに！）

認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を見守り応援するサポーターを養成しています。



受講後にはサポーターの証 オレンジリングを配布します



地域で見守り支え合う

たつのカフェのご利用を

本市の認知症カフェ「たつのカフェ」を知っていますか？

たつのカフェは、認知症の人やその家族、医療や介護の専門職、地域の皆さんなど、誰もが気軽に参加できる「集いの場」であり、認知症の人やその家族が安心して過ごせる「地域の居場所」です。市内には7カ所の認知症カフェがあります。ぜひご利用ください。



こののぼりが目印です



このステッカーが目印です

認知症サポーターが、店舗等において声かけや買い物などの手伝いをするなどで、無人レジや支払い等で外出を不安に思い、閉じこもりがちになる高齢者や認知症の人の生活を支援します。



はいかい高齢者等見守り SOSネットワーク事業

認知症等で自宅への帰り道が分からない等、行方不明になる可能性がある人の事前登録により、万が一が行方不明となった場合の早期発見と保護を図ります。「見守りQRシール」を服、靴、鞆等に貼ることで、日ごろからの見守りや緊急時の連絡に役立ちます。

見守りQRシール



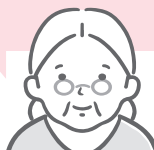
二次元コードを読み取ると、地域包括支援課、たつの警察署の電話番号が表示されます。

認知症の人とその家族の声を紹介します

認知症地域支援推進員が、窓口での相談や自宅、認知症カフェへの訪問を通じて聞きし、認知症の人とその家族の声を紹介します。



やっぱり家が一番。
何十年も暮らしてきたこの家で、暮らし続けたい。
もの忘れはあるけど畑したり花を育てたり忙しいんやで。



認知症カフェに来て良かった。ホッとする。続けて来たい。ゆったり過ごせる。



認知症になって困っているのは本人やと思う。失敗してもな、「ドンマイ！」と声を掛け合っていこう！

小さなことでも気軽に相談を

公民館やコミュニティセンター等で、タブレットやスマートフォンを用いた認知機能チェックとその結果を踏まえた個別相談を行っています。



ご自身の認知機能を振り返る機会になりますので、ぜひご利用ください。

認知機能チェックの詳細はこちら



地域包括支援課は、認知症の相談窓口です。認知症が心配になったときの受診先や、介護サービスの利用など、認知症地域支援推進員（保健師、看護師）が相談に応じます。



これからも、認知症の人とその家族が、普段思っていることや、やってみたいこと、このような地域であってほしいということを話しやすい地域づくりにご協力をお願いします。

●相談・問い合わせ先

地域包括支援課 ☎64・3125、☎63・0863

